

## 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

### 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	真庭市立月田小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	地域を元気に！「バンドーラプロジェクト」

#### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

##### 1 活動に至る経緯

令和4年度、一般社団法人「にいみ木のおもちゃの会」代表の藤本忠男氏、新見公立大学准教授の広瀬綾子氏らを講師に、身近な「木」を使っての楽器づくり、演奏活動を通して地域との交流を図ってきた。令和5年度は、材料すべてを地元産の木材を使用することで、自分たちの地域の歴史や産業への理解を更に深めていくとともに、ふるさとへの愛着を育んでいく。

##### 2 活動・研究の目的（ねらい）

地元材による楽器「バンドーラ」の製作、演奏活動を展開していくことにより地域活性化を図る。

「バンドーラ」は、ギターを小さくしたような4弦の弦楽器で、ギターとマンドリンの中間のような澄み切った美しい音が出る。この楽器づくりのパイオニアである長野県の教師、中澤準一氏によって20年以上も前からこう呼ばれている。

材料に地元材を使用することで、真庭市が西日本有数の木材の産地であることを再認識する。また、真庭市が「SDGs 未来都市」に選定され、山林資源を活用した木質バイオマス発電など、持続可能な開発目標の達成に向けた優れた取組に対する理解を深め、自分たちの地域の未来に対して思いを持つ。さらに、地域等での演奏活動を通して、児童は様々な年代の方との交流を図り、地域に対して貢献している実感を持つ。結果、地域で音楽を子どもたちと一緒に楽しむことで、異年齢の交流による地域活性化に貢献することが期待できる。

##### 3 活動内容

- (1) 対象者 5・6年生（9名）
- (2) 教科 総合的な学習の時間・図画工作・音楽
- (3) ねらい

- ・真庭市が「SDGs 未来都市」に選定され、山林資源を活用した木質バイオマス発電など、持続可能な開発目標の達成に向けた優れた取組に対する理解を深め、自分たちの地域の未来に対して思いを持つことができるようにする。
- ・地域等での演奏活動を通して、様々な年代の方との交流を図り、地域に対して貢献している実感を持つことができるようにする。
- ・他者と協働しながら自己決定をする経験を積み重ねることで、意欲や自制心、忍耐力といった非認知能力を育成する。

##### (4) 活動の特色

製作にかかる労力や時間は膨大である。しかし、手間暇かけた取組を計画的、継続的に積み重ねることで、達成感を得られ自己肯定感を高めることが期待できる。また、自分たちが暮らす地域での貢献活動を行うことでふるさとを思う気持ちが育ち、地域の課題に対して自分事として携わ

ることができるようになることが期待できる。

また、本活動は、一般社団法人「にいみ木のおもちゃの会」、月田コミュニティ協議会等と連携しながら進めていく。多くの人携わり、地域に開かれたカリキュラムの実現が可能となる。

さらに、総合的な学習の時間を核にしなが、図画工作や音楽といった教科を横断的に結びつけたプロジェクト学習として展開していく。子どもたちは、失敗を繰り返し、何度も挑戦しながら課題解決を図っていく。ただ調べて発表という学習ではない、教科の枠を越えた体験を子どもたちが主体的にして成長していくことができる。

#### (5) 活動時期および内容

##### ア バンドーラ製作

4月から7月にかけて12回、「にいみ木のおもちゃの会」のメンバー3名に指導していただき、バンドーラを製作した。材料は、地元の檜材を使用した。胴の部分は各自の好きな形をデザインした。板を糸鋸で切り（図1）、鋸ヤスリでけずる作業に苦戦しながらも完成を目指した。組み立て（図2）、塗装作業を経て（図3）、最後に弦を張って完成した（図4）。やり遂げた児童たちの表情は満足感があふれていた。



図1 糸鋸での作業



図2 組み立て作業



図3 塗装作業



図4 弦を張る作業

##### イ 地元産業の理解

6月、バンドーラの製作と同時に、材料の調達にお世話になった地元の製材所や木工所を訪問し、木材加工の技術、木の仕事に携わることへの思いを聞かせていただいた（図5）。児童たちにとって当たり前であった仕事について再認識することができた。



図5 製材所での説明

##### ウ 演奏活動

11月から地域のイベントにバンドーラの演奏を依頼され、多くの演奏の機会を得ることができた。NPO法人「真庭めぐりガーデンプロジェクト」（図6）、ささえあいデイサービス「元気☆輝きづくりの会」（図7）、月田コミュニティ協議会、真庭消防署等からの依頼で（図8）、多くの人との交流ができた。どの会でも、直接感謝の気持ちを伝えられ、自分たちが地域に貢献しているという実感を持つことができた。



図6 校外イベントでの演奏



図7 公民館での演奏



図8 保育園での演奏

##### エ 学習成果の発表

11月、学習発表会で、保護者や地域の方へ、プロジェクトの成果を発表した（図9）。真庭の木のことを、バンドーラの演奏と合わせて聞いていただいた。演奏には、講師の広瀬綾子氏と、昨年度バンドーラを製作した卒業生も飛び入りで加わり盛り上がった。また、1月には中学校区の4小学校がオンラインで各校の学習の様子を交流した。月田小学校は、このプロジェクトのことを紹介し、他校の児童からも興味を持ってもらい、児童たちは達成感を得ることができた。



図9 学習発表会での発表

#### 4 子どもたちへの効果（成果・課題）

12月に実施した本校の児童アンケートにおいて、質問「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うことがありますか。」に肯定的に回答した5・6年生は100%だった。今年度4月の全国学力状況調査の全国値は76.9%であることから、児童は地域や社会に対して主体的に関わる意識が育っているものと考えられる。これは、地元の歴史や産業について知るだけではなく、演奏という活動を通して、地域に関わり、そのことが評価されるという経験によるものだと考える。今後も、地域へ出かけ、多くの人と関わる活動を充実させていくことで、地域や社会に主体的に関わろうとする児童の育成を目指していきたい。